

# 沼津高架P Iプロジェクト



## 審議事項 1

ステップ5,6のプロセス評価について

【第12回P I委員会】

# ステップ5のプロセス評価について

# ステップ5におけるP Iの自己点検

	実施計画での評価の視点	ステップ5での評価の視点
7	PI委員会の助言を踏まえて、適切にPIを実施しているか	<p><u>PI委員会の助言に対して、適切な対応がなされているか？</u></p> <p>1)技術的な検討内容に関して、第三者の専門家から指導や監査を仰ぎ、公正で客観的な検討を心がけること。</p> <p>2)女性や若年層なども含む広範な層に多様な方法でアプローチすること。</p> <p>3)関係者間の対立がさらに鮮明になる可能性もあるため、時間管理概念を再度認識しつつ、緻細な議論に陥らず俯瞰的な議論となるようなプロセス運営に努めること。</p> <p>4) 対立軸を巡る争いに立ち戻らないよう、議論の視点に留意しながら互恵的な解決を目指すこと</p>

## 【自己点検】

- 技術検討では技術検討アドバイザーからの指導や監査を受け、公正性と客観性の確保に努めた。

# ステップ6のプロセス評価について

# ステップ6におけるP I の自己点検

	実施計画での評価の視点	ステップ6での評価の視点
1	多様な利害や関心を調整して互恵的な解決を模索しているか	多様な観点からの比較評価を踏まえ、各ステークホルダーの本質的ニーズに照らし、互恵的な解決となる代替案を模索しているか？ 代替案を選定する上で、従来の賛否論に引きずられていないか？

## 【自己点検】

- ステップ5では各代替案を多様な指標で比較評価したが、このように各代替案の可能性を多様な観点から見比べる上で、目標とする地域づくりの観点に常に立ち返ることで、互恵的な解決策の余地が見出しやすくなったのではないか。

# ステップ6におけるP I の自己点検

	実施計画での評価の視点	ステップ6での評価の視点
2	どのステップの検討をしているか明確にしながら進めているか	ステップ6であることを明らかにしながら検討を進めているか？

## 【自己点検】

- ステップ6では、今後具体化するための代替案の候補を選定する段階であることを勉強会等において明確化した。
- ステップ5までの比較検討においても、詳細に比較する代替案の数を絞ったが、それ自体は検討の効率化のための案の絞り込みであって、最終的な代替案を選定することとは違うことを意識し、「いつの間にか選定した」といった誤解につながらないように配慮した。

# ステップ6におけるP I の自己点検

	実施計画での評価の視点	ステップ6での評価の視点
3	議論が混乱しないよう、各ステップの趣旨に応じた検討を行っているか	ステップ6は代替案を選定する段階であり、新たな代替案や評価指標の提案、新たな代替案比較などが安易になされていないか？ 代替案の選定の考え方について検討を行っているか？

## 【自己点検】

- ステップ6においても、ステップの目的を説明し、新たな代替案等の提案など、議論の後戻りをしないよう努めた。
- 勉強会などの意見から資料を作成し、代替案の選定の考え方について、議論した。

# ステップ6におけるP I の自己点検

	実施計画での評価の視点	ステップ6での評価の視点
4	多様な利害や関心を踏まえた上で、目標や代替案、評価項目を設定しているか	代替案の選定においては、ステップ2で共有した地域づくりの目標の観点から根拠が示されているか？

## 【自己点検】

- 代替案の選定においては、地域づくりの目標をどこまで実現できるか、その実現の支障となる要素に対処できるか、といった観点で論拠を構築し、基本となる地域づくりに常に関係づけるようにし、本来の目標を見失わないよう配慮した。



# ステップ6におけるP I の自己点検

	実施計画での評価の視点	ステップ6での評価の視点
5	市民や関係者との多重多層のコミュニケーションを行っているか	オープンハウスなどを用いて市民的議論としての幅の広さが保たれているか？ 車座談議などの直接的な双方向コミュニケーションの機会を通じて、様々なステークホルダー(利害関係者)との対話が継続されているか？

## 【自己点検】

- オープンハウスを4回開催するなど、幅広い議論ができるよう努めた。
- 車座談議についても、以前から開催している6団体に対して働きかけ、複雑な内容に関して疑問が残らないよう、プロセス全体に関して関係者の理解が進むよう努めた。

# ステップ6におけるP I の自己点検

	実施計画での評価の視点	ステップ6での評価の視点
6	積極的かつ適切に情報を提供しているか、十分に意見を聴き、論点を把握しているか	勉強会での議論の状況をオープンハウスや車座談議などの手法を通じて広く共有するとともに、多様な意見を把握し、論点を整理しながら進めているか？

## 【自己点検】

- 車座談議を通じてわかりやすい情報提供に努め、併せて広く意見を把握するよう努めた。
- オープンハウスにおいては、対面コミュニケーションに努め、多くの市民との対話が図られるよう努めた。
- 最終回の勉強会では、参加者全員から意見陳述を行い、言い残したことを出し切っていただくよう運営した。非常に紳士的に発表が行われ、当初心配された中傷合戦となるようなことは全くなく、言いたいことをしっかり述べて頂けた。

# ステップ6におけるP I の自己点検

	実施計画での評価の視点	ステップ6での評価の視点
7	PI委員会の助言を踏まえて、適切にPIを実施しているか	<p>PI委員会の助言に対して、適切な対応がなされているか？</p> <p>1)女性や若年層を含め、より広範に議論の経過を継続的に情報提供すること。</p> <p>2)時間管理概念を再度認識し、俯瞰的な議論となるよう努めること。</p> <p>3)地域づくりの目標に立ち返りながら互恵的な議論とすること。</p>

## 【自己点検】

- オープンハウスをショッピングセンター内で開催することで、女性や若年層の意見の把握に努めた。
- 勉強会では、PI以降の進め方についても、時間管理を行い早急に具体的な検討を進めるべきことについて相互に確認できた。
- 今後の検討においても地域づくりの観点から早急に進めるべきことを確認した。

# ステップ6における自己点検 総括

- 代替案の選定においては、地域づくりの目標をどこまで実現できるか、といった観点で論拠を構築し、本来の目標を見失わないよう配慮した。
- 最終回の勉強会では、参加者全員から意見陳述を行い、言い残したことを出し切っていたくよう運営した。
- 今後の検討においても地域づくりの観点から早急に進めるべきことを確認した。